

会 議 の 名 称	第2回あま市放課後子ども教室のあり方研究会
開 催 日 時	令和5年1月12日（木）午後2時から3時30分まで
開 催 場 所	あま市役所 甚目寺庁舎 2階 第1会議室
内 容	1 あいさつ 2 協議事項 （1）委員長・副委員長の選任について （2）令和4年度放課後子ども教室について （3）令和5年度放課後子ども教室について （4）その他
資 料	次第 令和4年度放課後子ども教室について（資料1） 令和5年度放課後子ども教室について（資料2）
公開・非公開の別	公開
傍 聴 人 の 人 数	0人
出 席 委 員	木全委員、田邊委員、井村委員、谷川委員、横井委員、石塚委員、川原委員、村上委員、宮崎委員、大西委員、立松委員、内山委員
欠 席 委 員	三木委員
事 務 局	後藤福祉部長、恒川子育て支援課長、林主幹、近藤課長補佐、山田主任

事務局	開会 あいさつ
福祉部長	あいさつ
事務局	資料確認 協議事項 (1) 委員長・副委員長の選任について 委員長は民生委員児童委員協議会会長井村委員、副委員長は元日本福祉大学社会福祉学部准教授木全（克）委員
井村委員長	あいさつ 協議事項 (2) 令和4年度放課後子ども教室について
事務局	令和4年度放課後子ども教室について説明。
井村委員長	はい、ありがとうございます。今説明がございましたが、何か質問でも感想でもよろしいです、何か委員さんからございませんでしょうか。
宮崎委員	プログラムですが、すごくびっちり今年に入っているなどというところを感じるんですけども、例えば会の度に色々とお話しさせていただいてますけど、例えば、あま市の商工会のお店をやってみえる方ですとか会社をやってみえる方に来ていただいて色んな勉強会をしていただくのも面白いなと思っていたんですけども、体験しながらですとか、そういう方がいきなり僕やってもいいですよ、私やってもいいですよという人が来た場合、入り込める隙間はありますか、これだけあるとね。
事務局	全然大丈夫です。
宮崎委員	あとですね、ここ最近ですが、保護者の方から放課後子ども教室で少し意地悪な子が入って来たわというケースも耳にすることがあるようになってきたんです。そういった時の

	<p>ボランティアの方の接し方とか、多分大人の目の前で見てないところで意地悪とか子どもだからすると思うんだけど、指導の仕方とか、どうされているのかなというのがちょっと分からなくて、確かに喧嘩して子ども同士仲直りある程度のことができるような仕組みづくり、できる環境があるといいなと私は思うんですけども、実際の現場ではどんな風にされているのかな。そのせいでちょっと辞めちゃった、とか、学校にも来れなくなっている、ちょっと大変なことになってるね、みたいな感じで思ってるんですけど。そこをもうちょっと知りたいというのがあります。自由なのはとても良いことですけど、例えば命に関わることだとか、大きく人を傷つける言動だったりとか、そういうものはやっぱり叱ってあげないと分からない部分もあると思いますので、何でもかんでも野放しにしていたら、まずいなと思って、報告させていただきました。</p>
事務局	<p>スタッフだけで対応できない場合ですとかありますので、学校と情報を共有し、相談しながら進めて行っている現状ではあります。</p>
宮崎委員	<p>お願いします。</p>
立松委員	<p>他にまだ何か、ある方いらっしゃいますでしょうか。</p>
川原委員	<p>今の説明お伺いしまして、参加人数増えているため、スタッフの方の負担も増えていると思います。スタッフの方に感謝の気持ちをお伝えいただけたらなと思います。一点ですが、書面会議の時にも提出させていただきましたが、甚目寺西小学校が、学校の規模に対してもすごく参加人数が多いと思うんですけども、参加人数に対して、スタッフの方から、スタッフの人数が足りなくて、現場の安全管理面ですごく不安を感じるという話をいただきました。どうしても予算の関係とかあると思いますが、ボランティア、無償でも良いので、安全面で心配だから入りたいぐらいだという話もありまして、やっぱり、スタッフの皆さんに安心して活動していただける、やりがいを持って続けていただくためにもそういった安全管理面でもしスタッフの増員が難しい場合は他の形</p>

事務局	<p>でも、より安心して協力していただけるような体制作りも必要じゃないかなというのを意見としてご報告させていただきたいと思います。</p> <p>学校により参加人数にばらつきはあるものの、子ども教室全体としてスタッフの謝礼の予算というものはしっかりとってありますので、他の参加人数の少ない学校さんとのバランスで予算が足りないことは全くございません。先程もご説明しましたが、スタッフの募集を随時、参加者の保護者の方だったりとか、地域の方だったりとかにお願いをして、随時受付をしていますので。足りないところ、今回西小学校はですね、参加人数も上限までいってますので、参加人数に対して委員が心配されるスタッフの人数が少ないというところに対しては、職員が毎回出向いて応援に入ってます。</p>
川原委員	<p>わかりました。ありがとうございます。</p>
井村委員長	<p>そうですね、応援は何人いても助かりますよね。</p>
川原委員	<p>安全管理上特に気を付けなければいけないですとか、単純に人数だけでは量れないのかなと思います。ありがとうございました。</p>
立松委員	<p>今、川原さんがおっしゃられたことに近いところですけど、やはりそのバランス、40人お子さんがいると、いくら体育館といえども、6人なら何とかかなと、私が過去、関わっていた時に、やっぱり実際、本当に行き届かなくて、知らない間に泣いてるとか、そういうような事態が起こりやすかったりしたのでもう少しスタッフが増えるといいのかなと思います。年齢のバランスもあるのかなとは思いますが、特に低学年のお子さんが多いかなと思うので、もう少しスタッフが増えたらいいなど。今コミュニティスクールで、学校ボランティアの登録をされていると思うんですね、そういった方たちにも、時間帯が限られていますのでお声掛けをしてみてもいいかなというご相談です。結構名簿はあると思うんですね、生涯学習課さんにあると思うんですけども。そちらの方にもボランティア精神がおありだし、学校のサポート</p>

	<p>をしたいという方が登録されていると思うものですから、わからないですけど、そういった方が有償ボランティアという形で声をあげてくださるかどうかはわからないですけど、不特定多数に発信するよりかは、もしかしたら可能性が出てくるかなというところを感じています。それと募集中のチラシで一時間あたり、ボランティアということで1,000円というように表記がされています。こちらの金額が、妥当性とか正直よくわからないですけど、一応愛知県の最低賃金が986円という現状なんですね、1,000円は別に雇用ではないので、有償という形であれば最低じゃなくても全然いいとは思いますが、そういった今の世の中の賃金の感覚値がやはり、もう少し、大変な仕事ですので、少し上げてもいいのかなという風には個人的な感覚としてありましたので、ご意見として。</p>
事務局	<p>少し触れていただきましたけども、あくまで有償ボランティアというところで謝礼ではあるものの、今後ですね、こちらの単価についてはその時々を検討して参りたいという風に考えています。</p>
大西委員	<p>登録というところですけど、宝がいつまで経っても3名とかになっているものですから、前回どんな風だということでお話したと思うんですけど、回答が色々と並べて出てきたと思うんですけど、これはどういう風な恰好で戻ってきてみるか、アンケートの結果、良くないというところであればまた考えなければならないと思うのですが、どういったところをお考えでしょうか。</p>
事務局	<p>七宝地区に関しましては昨年度からも登録人数が少ないため、アンケートを昨年度実施させていただきました。今年度ですが、昨年度と同様、PTA総会にて周知をさせていただいたり、また、子ども達と一緒にPRポスターの作成を行い、そちらを学校の掲示板の方に貼らせていただくように依頼をさせていただきました。途中で参加希望のお話もありました。そのため、ポスターですとか、そういった子ども達の口コミの中で徐々に評判が広がっているのかなというふうには感じています。</p>

大西委員	<p>今回、12月の半ばにですね、宝と秋竹小の方へ行ってみえる我々の学区は遠島というんですけど、その地区で餅つき大会をやったんですね。そしたら本当にね、児童さん本当に多くて、百何十名も来ていただいたんです。こういう時になると出てこない、その辺のところは疑問なんで、前回の回答はどうだったかということを知りたいんですけども。</p>
事務局	<p>宝小自体生徒数が少ないものから、中々集まるのが難しいのかなと思うんですけど、またあの沖之島ですとか遠島さんのような郷中が多い地区なのでお家帰ればおじいちゃんおばあちゃんがいたりして、中々、学校に残ってというの少ないような気がします。後はどうしても学校でそのまま残って預かってほしいというご家庭の方は児童クラブにも入ってたりしますので、児童クラブさんに入っている方が子ども教室と兼ねるといことは今やっておりますのでそのところを外せば、多少また変わってくるのかなということもあります。ただ、学校内で教室をお借りして、児童クラブやれてるところはいいですけども、学校さんの方も余剰教室がなく、我々の方のそれぞれの地区の児童館使っているところなんかは、子どもさん達が移動されます。ですので子ども教室を参加後に、児童クラブは19時までやりますので、そちらに移動というのは少し難しいのかなと、子ども教室の日、子ども教室と児童クラブを掛け持ちでもいいよとした場合でも、子ども教室の後に児童クラブ行くよというのは少し難しいものから、もしその垣根を取っ払うということになりますと、もう少し色々な方のご意見聞いたり、安全面とかですね、その辺を考えないといけないのかなと、今後のお話ですけども、人数に特化して考えていくとそういうところにも辿り着くのかなと思っております。中々地元の話で答えになってないかもしれませんが。立松委員おっしゃられたように学校ボランティアさんとかありますのでそういう地元の方には、委員長からお話聞いたんですけど、保護者の方の力というのはすごく大きくて、やってもいいよという方は中にはお見えになられると思いますので、そういう方がお見えになられれば、そういう方のお力を我々借りたい、というところを考えております。よろしくお願ひし</p>

川原委員	<p>ます。</p> <p>先程の立松委員のおっしゃったボランティアさんの謝礼に関してですが、この放課後子ども教室の運営だけを見ると、皆さんが活動しにくい時間帯に活動に対して1時間あたり1,000円は妥当なのかどうか勿論疑問はあると思いますが、ただ現状同じようにママぷらすの事業の一環のファミリー・サポート・センター事業をやらせていただいているんですが、これも有償ボランティアさんのご協力によって成り立っている活動で、夕方の子どもの送迎ですとか、預かりですとか、そういったことをやってくださっている方が有償ボランティアとして登録してくださっているんですけど、こちらの皆さん1時間700円で活動していただいているんです。実はこの700円というのは全くの受益者負担なので、利用される方が直接お支払いいただく金額なんです。なので、ここをもし上げていくとなると、受益者負担も増えてしまうというところで、中々見合わずには難しいところがあるので、やはり同じように有償ボランティア活動の内容は違えど、子どもに関わる有償ボランティアという名前がついておりますので、あまりにも謝礼の金額にばらつきがあるのも、どうしても皆さんボランティア精神で奉仕の気持ちで登録してくださる方ばかりですので、あまりにも差が出てしまうとちょっと良くないかな、バランスをみて考えていただけると良いかなと</p>
事務局	<p>ご意見ありがとうございます。またそういった他とのバランスも考慮しながら、今後考えて参りたいと思います。</p>
大西委員	<p>やはり2人のところで1人休まれると1人になっちゃうので、その辺のところはどういう風にされるか。</p>
事務局	<p>先程甚目寺西小でもそうなんですが、スタッフが少ないところについては、担当課の職員が開催校にちらばって応援に入っていますので、特に子どもさんの安全面については、安全に見守れるように職員の方で対応して参ります。</p>
大西委員	<p>職員の応援がしょっちゅうだと大変だと思うんですね、</p>

事務局	<p>その辺りどうなんですかね。</p> <p>スタッフの登録が増えてこればそれに越したことはないんですけどもどうしても足りないところについてはですね、適宜対応していかざるを得ないのかなと思いますので、活動中に何か事故等あってはいけないものですから、そこは職員が出向くのはやむを得ないのかなという風に考えております。</p>
大西委員	<p>この今の子ども教室のプログラム、スタッフさんで考えてみえるんですね。先回スタッフさんと話をしておったんですけど、木全先生のところで要らない道具なんかあると思うんですね、要らないものはこんなものがありますよというリストにしていただけたらという話ですけど、それを用いてこのプログラムの中に応用できるものがあればやりたいなというお話が私の方に来ておまして、だから、もし仮に先生が時間があればですね、そういうリストを作ってほしいなということです。</p>
木全副委員長	<p>地区によって用具とプログラムの展開が違っておまして、美和の場合は美和公民館に全会場の用具が置いてあるものですから、その都度必要な時に、持って行って使って返すという状況ですね、ところが甚目寺とか七宝はそれぞれの所謂コンテナにあるという、単独なんですよ。私ロープとかボールとかいっぱいとかあるんで、使ってもらえるように美和には四・五種目置いてあるので、これは四つの会場に分けるということがちょっとできないので今度ちょっとそれ考えてまた展開できるようにしていきたいと思います。</p>
大西委員	<p>借りるときにはどこに連絡すればいいのですか。</p>
木全副委員長	<p>とりあえず器具は私持ちなので、あとレクリエーション協会です。</p>
大西委員	<p>それは連絡すればいいの。わかりました、ありがとうございます。</p>

木全副委員長

ちょっと副委員長の立場でなくて、一スタッフとして一年間子どもと活動している中から、少し感想を述べさせていただくというところで、まず子どもの問題、今日小学校の校長先生も見えるんですけど、子ども達というのは授業時間ずっと我慢してよし放課後子ども教室に暴れてやろうと蓄えている子どもと、それから真面目にやってフラフラになって2時間来る子ども、とすごく差があるんですね。その中にまた学年差、体力差、興味の差があるという。いじめっ子とかそういう問題もあるんですけども、だからその辺のところを考えると、この3月で終わるんですけど、スタッフも倒れそうになりながら、あの子4月から思うとよく変わったなという達成感、喜びだけで皆さんやっています。僕は人数に拘らないということですよね、スタッフと子ども、子ども達も聞いてみると、辞めた子、お母さんと会うと、入りたいけど次のステップで塾へ行かなきゃだめになってくる、今まで送迎が出来ていたお母さんが都合が悪くなった、おじいちゃんが病気になる、ですとか個別の理由がすごくあるものですから、今のスタッフの中、それから子ども達の教育からいくとそれ程人数に拘らなくてもいいんじゃないかと思っています。ボランティア、今どこへ行っても足りないです、サロンでもそうだし、クラブでもそうです。だからもう人材発掘、育成なんて無理です。だから極端なところでいくと今継承、例えば、スポーツクラブ、子どもが卓球でお世話になった、中学校、高校、大学になって、あの時お世話になったから地元へ戻って卓球を教えてやろうかというような、そういうような長いスパンの継承という言葉を使っておるんですけど、そこまでのスパンで考えていかなければいけないということと、自分のことは自分でやらなければいけないとはだめだということ、生涯学習課、学校に、やっぱり自分の子どもは自分が見るんだというところをもう少しアピールして、保護者のスタッフ今8名ぐらいいるんですけど、そういう形のものにもっていかないと、やっぱり、現場をみてもほんとにこれ大変なんです。スタッフの内訳人数みていただくと、3番のところですよ、どういう訳か美和にはコーディネーターが一人しかいないんです。これ誰かというと私なんです、私は同じ日に2校の学校を駆けずり回っています、何もやる訳じゃないですけど、ただ目があればいい、あと戸締りし

	<p>ただとか、今日どうだったか、とか。この辺のところもスタッフみても1人、今月から辞められたと。ちょっと調子が悪い、あるいは親の都合で、という形でどんどん抜けていきますので、何とかこういうところも育てながらというところも、考えていかないと。今ね余裕を持ってやっているかという余裕なくて、本当に事務局の方が人数の手配して、足りないところは職員が顔出してくれるということで、本当によくやっていただいていますので、その辺のところやっぱり少し理解していただいて、もうちょっとやっぱり委託協力じゃないですけども、親もやっぱり自分、あるいは地域の子どもは自分でみるんだというところをもうちょっとアピールしていかないと、支えきれないような気がします。そして立松さんの話もありましたけども、やっぱり有償ボランティアで一時間の謝礼なんかもやっぱり見直してるところも並行して考えていかなければならないかなという気がします。そんなところで私もいつまでも若くないというか、大変でしてね、本当に次の世代にと思っておるんですけど、何とか一斉スタートができて、また新たな組織の対応になるということで、そういうところで意識を持ってまた皆さんの力を借りていきたいと思います。もう一つ、募集みていただくと、資格の有無は問いませんと書いてありますよね、これでいいですけど、今来ていただいているスタッフの方の中には元小学校の先生、保育士の先生おられますけど、個別の所謂教育的な対応はできるかと言ったらできないです。色んなケースにおいてね、危ないから辞めるぐらいはできるんですけども、そのままきちんと細かく見てる訳じゃないし、ほんの隙で何か起きるところで。募集要項のところには2時間事前研修あります、それを終わった方が登録できますなんて書いたら誰も来ないですし、その辺のところ、ほんとに難しいんですよ、ほんとに今意欲と熱意だけでやっていただいているところを皆さんにお伝えさせていただきたいと思います。</p>
井村委員長	かなり伝わってきました。大変なことが。
立松委員	すいません、今木全先生現場でほんとに体感してらっしゃるからこそその言葉だなという風に、私も過去関わらせていただいたときに、コーディネーター役をさせていただいたとき

に、スタッフさんは体調が悪いとか、そういうことでお休みになられても、這ってでも行かなきゃいけないという、そういう責任感と子ども達が待っているという思いで行かせていただいたということが蘇りましたけども、ほんとにここに関わって下さってるスタッフの皆さんには頭が下がりますし、職員の皆さんも足を運んでいただいている頭が下がります。美和の方のスタートにも関わっておりまして、その当時から自分の子どもは自分でみたい、みるのが本来のあり方だよ、というような議論がありまして、ただ子どもをそこに預けるだけじゃなくて、親御さんも毎日じゃないものですから、一緒にそこに関わって、他の子ども達も一緒に見ていくという、風な考え方で最初もスタートしてきたと思うんですね、やっぱりそこに行き着くのかなと、それからあま市内でもある小学校が、これちょっと話が別かもしれないですけど、PTAのボランティア化ということを進めてる学校さんがあります、やっぱり角度を変えると、義務じゃなくて、進んでやろうというような、思いになって、全学年から、5.6年だけのPTAでなく子ども達と関わりたいとか、学校に顔を出したいとか、学校を支えたいという思いで、ボランティアでPTAに参加されている方々が増えているんですね。なので今までそういう発想がなかったものですから、やっぱりPTAやってくださいと言われてやるのと、私やりたいです、こんなことだったらできます、という、特にベルマーク集めとかは自宅で出来る、行かなくてもできる、すごく熱心にやってくださるというお声も聞いたことがあります。なので色んな学校によって色んなやり方もあるとは思いますが、そういった子どもと一緒に楽しむ時間を持ちませんかという風な、進んで参加できるような保護者の方に対して、お声掛けとかも少し工夫して、自分の子ども達がそこにいるから一緒に楽しもうね、みたいなそんな風な雰囲気になっていくと、温かい子ども教室になるんじゃないかなと思います。これだけ参加者がいる、辞められる方も少ない、家の事情で辞めるのは仕方ないけれども、これだけ参加しているということはニーズがあるということなんですよ。だから親も参加させたいと思っているし、子ども達も楽しいからまた来たい、と平均人数がかなり上がってきている。参加者も増えてきている、とだからそういう場というものをこれから

<p>井村委員長</p>	<p>積極的に提供しつつ、親御さんも巻き込んで自分事に、子育て支援を自分事にしていただけるといいなと、いつかはボランティアで子ども達がいなくても、次の世代に子ども達を自分達が育てていきたいという風に思っただけの予備軍としてまずここに参加していただけるよう促していけたらいいなと感じました。</p> <p>ありがとうございました。私もちょっと情報入っております、支援ボランティアのかなりロコミで皆さん広まっていますね、すごく出席されたお母さんの方が良い感想を寄せられていて、だから私もやってみたいなという、お手を挙げられる父兄の方も、登録数も50人近いと思うんですけど、そういうことを聞きました。別に何も資格はないんですけど、サポートで授業の、参加すると授業参観でみてた子ども達じゃなくて、中でサポートすると、違う面の子ども達が見えるということでもいい反応でした、という風に伺いました。だからすごくお母さん達が自主的に、今の言われたとおり、お母さんの方から自主的に声かけ、この時間は空いてますからこれに出たいんです、とか、そういうことを言われました。例えば料理教室でもそうなんですけど、スタッフの仲間に入って、子ども達を見守る、その時の手順をみながらちょっと違ったらちょっとここ違ふとか、私達でもできることを声かけさせてもらいました、とか。あとはプールサイドで子ども達の見守り、あれも参加させてもらいました。その時もやっぱりプールの子どもの表情って全然違う、感想もお母さん達ちゃんとされてまして、あとは社会見学、高学年の子ども達が色んなお店に回る、それにも一緒について行って、お店の裏側をお母さんも一緒にみたりとか、こんなところ入ったことないね、と言って、子ども達と一緒に回ったりとか、そんなのにお母さん同士も良い意見の出し合いというか、そんなことを聞きましたけど、ほんとに自主的ですね、それも、いい話だなと思ってちょっと聞きました。そういう方たちが色んなところで時間あって時間でね、やってくださったらほんとに理想的ですけどね、みんなそんな訳にはいかないですね。</p> <p>折角この募集中というチラシを学校から配布させていた</p>
<p>宮崎委員</p>	<p>折角この募集中というチラシを学校から配布させていた</p>

井村委員長	<p>だくじゃないですか、その場所に例えば学校の保護者ボランティアさんとか、募集とか、わかりやすく、書くといいのかなと思ったりしますね。</p> <p>そうやってすごく協力的な情報が流れると、口コミでもいいですけど、いいなと思います。</p>
宮崎委員	<p>楽しくやっています、みたいな、写真と一緒に、あったりするといいですよ。</p>
村上委員	<p>今、色々子どもさん達の学習手段も色々あると思うんですけども、私もちょっと学校の方周らせていただいでいて、一番関心したのは、一つの小学校のこういう会議も必要だけれども、役員で集まって、学校の作品展というのをここ何年かやってらっしゃるんですよ。1年生から6年生までのそれぞれのコーナーが設けてあって、毎年観せてもらっていると、先生達が決めるんじゃないくて、子ども達学年ごとで決めて、やっているというのがあります。2日間だけ開放されて、みせてもらってるんだけど、そうすると子ども達の成長の段階、それがものすごく刺激受けてます。先生のアドバイスもあるかもしれませんが、それぞれの学年で感じたこと、みんなで集まって相談するという機会を設けてみえるということが、素晴らしいなということにはほんとに感じてます。やっぱり子どもは子どもなりの勉強の仕方というのがあると思いますので、そういうのも、私は一つの小学校の名前言ってはダメかもしれませんが、そういうのがすごく嬉しいです。そうするとまたそこで父兄の方たちとお話をする機会もあります、やっぱり地元ですので、お孫さんが通ってるとか言われて、娘の孫が通ってるとか色々話していると、ほんとに感激というのが、こういうところまでできるのかなと思いました。私は、そういうのも子ども教室でもそういうやっぱり技術を持ってらっしゃる父兄の方とか学校の先生たちの力で、作品展がそれぞれの、1年生から6年生までそれぞれ違いますので、やってらっしゃるといいうのもあるので、技術を持ってらっしゃる父兄の方たちもPTAの方たちももいらっしゃると思うから、そういう方たちからもアドバイスがあるといいかななんて、お手伝いというの、スタッフ、そ</p>

井村委員長	<p>うというのが一つのアイデアとして、いいかなと。観せてもらってるとそういう風に感じました。</p> <p>やっぱり子どもって親御さんが自主的になってやってくると、からだ後ろから押してもらって、子ども達もやっぱり力も強くなるんですね、家族みんなが子ども達の目を向けてもらってる、ことがすごく子ども達の前向きなことにも繋がると思っています。</p>
川原委員	<p>スタッフ募集のチラシを学校で配布していただいていると思うんですけど、小学校の方で配布されているのでしょうか。</p>
井村委員長	<p>もちろんやってるのは小学校だけですので。</p>
事務局	<p>チラシを配布しているのは小学校です。</p>
川原委員	<p>中学校でも配布されてはどうでしょうかと思ったんですけど。中学生のお母さんに、ひょっとしたら協力していただける、小学校の現役のお母さんだと下のお子さんが小さかったりすると、働いていなくてもやっぱりこの時間出にくかったりすると思うんです。子どもさんが中学生になると皆さんフルで働かれる方多いですけど、全員じゃないので、もしかするとフルで働いていないお母さんだったら、中学生のお母さんの方がこの時間出やすいかもしれないですし、ひょっとしたら協力しようかなという人もいるかもしれないなど。</p>
事務局	<p>中学校の保護者だけではなく、広報の折り込みにこちらの方入れさせていただいて、広く周知をしています。今委員の皆さまから色々沢山のご意見を頂戴しましたがけれども、スタッフの募集については、潜在的に関わってもいいとか前向きな方もいらっしゃると思いますので、募集の方法については、また所管変わりますけれども部署間でしっかり連携しながらですね、スタッフの募集についても、検討して参りたいと思います。</p>
大西委員	<p>勉強不足かもわかりませんが、スタッフというのは何名</p>

事務局	<p>ぐらいの子どもがおったら、これだけの人がいますよとか、そういうものは判断基準としてはないんですか。</p> <p>基本的な基準というものはないです。ないですけども、最初に立松委員からお話あったように、例えば甚目寺西小で50人の児童がいるにも関わらず、スタッフの人数が登録としては6人なんですけれども、やはり最低でも10人に1人あたりとか、1人あたり児童が10人とかそれぐらいで確保はしていきたいなという風で考えてはおります。</p>
大西委員	<p>だから10人おれば3人ぐらいでしょうか。</p>
事務局	<p>そうですね。ただ具体的な基準はないものですから、あくまで目安というところでご承知おきいただければと思います。</p>
大西委員	<p>わかりました。ありがとうございます。</p>
井村委員長	<p>それでは次の議題に入ってよろしいですか。</p> <p>協議事項 (3) 令和5年度放課後子ども教室について</p>
事務局	<p>令和5年度放課後子ども教室について説明。</p>
井村委員長	<p>今説明がありましたけど、来年に向けて、来年度に向けてまた何かご意見がありましたら。</p>
大西委員	<p>もう募集はしてるんでしょ。</p>
事務局	<p>募集は3月からです。</p>
井村委員長	<p>今までの実績で、このままどんどんやっていただいて、5年度もどうですかね、本当にプログラムみても、すごく子ども達に飽きが来ないような、大変ですけどね、スタッフの方はすごく上手に組んであるみたいですし、またそこに色々な方が飛び込みでも来てくだされば、そこはそこでいいみたい</p>

大西委員	<p>なので色々な人に声をかけてもらって。</p> <p>このプログラム、ぎっしりして、やっていただいておりますが、このプログラムは講座ということになってますね。講師はどこから来るのでしょうか。</p>
事務局	<p>外部の講師の先生のなんですけど、ビーチボールの講師の方、防災教室ですと防災ネットさん、バランスボールですとバランスボールの先生をされている方がボランティアのスタッフさんにいらっしゃいますので、そのスタッフさんのご協力をいただいて、講座を行ったりですとか、そういった形になります。</p>
立松委員	<p>今後、生涯学習課さんの所管になるということをお聞きしたからではないんですけども、生涯学習課さんの方で何か講座の方やられていると思うんですが、年間計画で、そういう教室の人達が身に着けたスキルをこういうところで活かしてもらおうというか。</p>
内山委員	<p>ハードル高いですね、生涯学習講座として色々な講座をやっています。やっていますけど、そこで身につけたスキルをこういったところで披露する、子ども達に教える、ことになると個々の資質に関わってくるので、生涯学習講座でやったからと言って、それができるかというところちょっとハードルが高いです。みんながみんなできるかと言ったら、それは、自分達が、自分がその講座で楽しんでやれてるという気持ちで来てる方々が大半です。それを我々としては願っております、それを講座でやっていただいて、そこで身につけた、例えば、習字だとか、それをこういったところでというのはもう一段階必要です。ただ、我々としてはそこで受講された方が一人でも、色々なところで関連してもらえれば、例えばシルバーカレッジもそうですし、一人でも思っているところではありますけど、簡単にはいかないです。</p>
立松委員	<p>ただ、私共市民活動センターを運営している中で、県など色々な情報をお聞きしたりすると、そういった市民活動センターは公益活動している人達が登録しているんですね、ボラ</p>

	<p>ンティアだったりとか、市のためにですとか、そういった趣味のために活動している人たちは共益活動になるんですね、自分達が楽しい、自分たちがスキルを高め合って、だけどそれをいずれ公益に、ちょっとステップアップしていただく働きかけをしてらっしゃるところもよくお聞きするんですね、なのでよく生涯学習課さんの講座を卒業された方だとか、あるいは文化協会さんの方たちとかが夏休みに子ども向けの講座をやってもらったりとか、そういう風に少しずつですけど何か励みになるんじゃないかなという気がしますし、自分達の楽しみというのはとても大切なことなので、無理にということではないですが、気持ちがある人、例えば折紙のスキルが身についたよといった人が、じゃあ折紙教えたい、という風になる人もいるといいなという。</p>
内山委員	<p>それは生涯学習課長としても願ってます。そのように促していけないかなとは思っていますが、結構ハードルが高いですね。</p>
立松委員	<p>そしたら世代間交流にもなりますし、子ども達と違う世代の方との関わりになると思います。</p>
内山委員	<p>もちろん、シルバーカレッジもそういったねらいがありますので重々承知はしておりますけど、中々難しいところではあります。</p>
立松委員	<p>そういったこともいずれ出来るといいなと、よろしく願いします。</p>
谷川委員	<p>私初めて参加させていただきましたけど、これ5年度の予定になりますけど、1年間とおしての金額になりますよね、例えば半年しか入れない、とかそういうような考えはないですか。冬の間はだめだけど、夏だったら参加できるという、もちろん保険は年額一緒になるだろうと思いますけど。半年だったら参加したいなという方がみえた場合、1年分の金額となりますか。</p>
事務局	<p>現状としては、開始月が5月からと書いてありますけれど</p>

<p>木全副委員長</p>	<p>も大体2月まで、長期休暇の期間を除いてですので、大体月に1回ないし2回の開催になっております。個々のご家庭の事情もあろうかと思えますけど、今現在については年間の登録というところで保険代も含めて3,000円というところをお願いしております。今後人数の状況によって、個々の対応していくかどうかというところは、課題となっております。</p> <p>立松委員と生涯学習課長がみえますのでお願いをさせていただきますけども、豊田とか武豊なんかは10回講座の中で最終回では地域の学校へ出て行って指導するというものをプログラムにいれちゃって4.5人のグループで行くということを、だから色々な学習を楽しんで、やりっぱなしではなくて、終わってからその人達がどういう活動してくれるかというところも考えてやっていただいて、そうすると積み上げで、最終回出て行ってということも実際にありますので、ぜひこういうことを考えていただいて、課長、よろしく願います。</p>
<p>内山委員</p>	<p>その点については生涯学習講座の方ではないんですけど、シルバーカレッジの方では似たようなことが、卒業生、今度卒業式ありますけど、28日だったかな、そこでOB会というものを組んで、色々なボランティアに参加していただくように促してはいるのが今のところの現状です。ご意見ありがとうございます。</p>
<p>木全副委員長</p>	<p>学習で学ぶではないので、専門家呼ぶのではなくて、地域のおじさん、おばさん、お兄さん達が一緒に考えて遊んでくれる、という風だから、最適な場所になってくると思いますけどね、願います。</p>
<p>村上委員</p>	<p>先程の話が出てました、SDGsの話、まだまだ続くと思うんです、今日校長先生が来てらっしゃると思うんですけど、甚目寺小で色々発表されて、賞をいただいたという経歴もあって、児童ぐるみで勉強されたということもちょっとお話ししていただけるとありがたいかなと思って、みなさんに、なんかほんとに賞をいただいたそうなので、先生始め児童の皆さんの発表で、いいことされたようですので、それだけ報</p>

<p>田邊委員</p>	<p>告ということで。</p> <p>こういう機会をほんとに子ども達のために行政の方でやっていたいてるのはとても本当に感謝しています。ありがとうございます。一つ、来年のことにも関わるので、色々なプログラムがある中で、子ども達の意見を聞いていただけると嬉しいかなと、今年色々13回やってますけど、どれが面白かったとか、その中で、段々票が多いものから残していったって、人気のなかったものはちょっと変えていくという感じで、どんどん年を追うごとに良くなっていくという感じかなと、多分みていると子ども達お祭りとか物作りとか、からだを動かすとか、人気あるだろうなと、逆に授業でもやりそうなことはあまり人気が出ないんじゃないかなと。例えば防災教室をされる話とか、ストップ温暖化教室ですとか、先程の話で今SDGsとか学校でもやってるので、そういうことよりは、折角放課後に好きで集まってやるので、楽しかったな、よかったねという風に帰ってもらえるように、物作りとかからだを動かすとか、遊ぶことでいいんじゃないかなと思います。そうすると一番は子ども達が子ども達同士で口コミしているのが一番人数を増やすという点では効果的だと思うので、みんながみんなが楽しかったね、楽しかったねという風に終わっていただけるようになるといいなと思います。本当にありがとうございます。</p>
<p>事務局</p>	<p>始めに学校さんの中でこういった子ども教室をやらせていただきまして日頃から動いていただいているというところに対して本当に感謝申し上げます。先程のアンケートの話ですが、今ちょうど年度末を迎えて、昨年度までもそうですが、子どもさん、保護者の方、スタッフの方にアンケートをとっておりますので、そういったところでどういった講座が有意義であったのか、というところも設問工夫しながらですね、取り入れができるように考えて参りたいと思います。</p>
<p>田邊委員</p>	<p>ボランティアの募集、有償ボランティアの募集についてですが、これは登録をされたら必ず13回出なきゃいけないという縛りはあるものですか。もし都合が悪い場合は欠席をできるということであれば、そういうこと多少分かることを二</p>

事務局	<p>ユアンス的に書いていただくと、ちょっとハードルが下がって、私にもやれるかなということで、多少増えるかなと思います。</p> <p>ほんとですね、おっしゃるとおりで、実際はあくまで登録なので、実際に登録している方が、毎回出てくるということはないです。そういったところ含んで書いていくともう少し、集まりやすいかもしれないですね。</p>
井村委員長	<p>沢山意見が出てよかったですね</p>
事務局	<p>ありがとうございます。</p>
井村委員長	<p>それではこれで今日の議題は全部終了ということになりました。以上で本日のあま市放課後子ども教室のあり方研究会を閉会いたします。どうも、ありがとうございました。お疲れ様でした。</p>